

平成29年度 伊井小学校 学校評価書(総合)

No.1

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	H29 前期 (%)	H29 後期 (%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
学力向上の推進	1.家庭学習の習慣化	家庭学習の時間の目安(1-3年30分4年以上学年×10分)を設定し、家庭学習のあり方を工夫する。	家庭での学習や読書の指導を継続的に行った。 家庭での設定した学習時間(読書を含む)を達成できた。(週4日以上)	教職員	90	100	100	昨年度からはじめた年3回の学力向上週間の取組で、家庭学習の習慣化が定着してきたものと考えられる。児童クラブとも連携を行い、低学年の児童は児童クラブでも家庭でもしっかり学習に取り組むようになった。高学年においては、自主学習に取り組む児童が増え、保護者にもその姿が目につくようになったのではないだろうか。	次年度は、単に学習時間の量の評価だけでなく、自主学習に取り組む評価や学習の質的向上を目指した取り組みを行う。家庭学習をがんばる児童とそうでない児童(一部)の差が激しい。その一部の児童には地道に声掛けしていくとともに、保護者と連携し協力をお願いしていく。	・保護者が低いのは児童クラブや保護者の仕事の関係上、子どもの学習状況を把握していないためだと考える。ただ、時間的な量ばかりを目標にするのではなく、内容を重視することもお願いしたい。
	2.授業力の向上	研究主題を意識した研究を行い、分かる授業・魅力ある授業の創造に努める。	児童の興味関心を高められるよう、魅力ある授業づくりを実践した。	教職員	90	100	100	児童の学習に対する意欲や日々の授業が分かる指数が9割を超え、成果が見られた。本校の研究主題「学びを生かし、考え、表現する児童の育成」に結び付く「学力向上のための3つの柱」を意識した授業改善の取組の成果だと考える。しかし、児童の理解状況を分析すると、時間が経つと忘れてしまう傾向があること、発展問題に対して苦手意識があることなど、この評価結果を鵜呑みにはできない。既習内容をしっかり定着させ、学力向上に繋がる授業改善は今後も不可欠である。	児童の学習意欲の向上は、確実に学力向上に繋がっており、保護者の学校に対する信頼となって表れている。次年度は、さらに児童の興味関心を高められるような魅力ある授業づくりを行う。単元によっては理解が難しい単元もあり(算数;割合など)、教師の授業力を高め丁寧な授業を行う必要がある。さらに、児童が発展的な学習に対しても意欲をもって取り組め、苦手意識を克服できるような授業改善を行う。	・子どもは自己評価を甘くつける、もしくはその場では分かった気になっている傾向にある。理解の低い児童に対してはよく見てほしい。 ・保護者は家庭学習など家でも協力的に見ていく必要がある。 ・SASAのような学力テストに応用問題に対応できていない。校内学力テストの中に、応用問題も入れてほしい。 ・全体的に評価指数が大幅に目標を上回っており、取組の成果が出ている。次年度も学力向上に向けて、ぜひお願いしたい。
			日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(低学年)	児童(低)	80	95	95			
			日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(高学年)	児童(高)	80	95	95			
			日々の授業が分かった。	児童	80	99	93			
	子ども達は授業が分かっていた。	保護者	80	92	93					
3.活用力の向上	既習の学習を積極的に取り入れ、活用力を高める。	既習内容を振り返り、授業の中で活用力を高めるような工夫を行う。	教職員	90	100	100	教師の評価指数は高く、活用力を高める工夫は全教師が行っている。しかし、本校の特徴であるB問題、発展問題が劣る傾向は続いており課題がある。	朝学習や授業の中で既習内容を振り返り、活用力を高める工夫を継続していく。月に一度ある校内学力テストを基礎・基本的な問題ばかりでなく応用問題も少し盛り込む。(算数webや県からの問題集を参考に類似問題を作成する)	・家庭で読書時間を増やすためにもノーゲーム・ノーメディアデーの徹底をお願いしたい。各家庭でもそのルールをしっかりと守らせるとよい。 ・子どもがゲームに夢中になっている傾向がみられるが家庭の教育力、しつけが落ちてきている。	
4.話し合う力の向上	授業等で、話し合う場面を積極的に取り入れ、話し合う力を高める。	授業や生活場面で話し合う力を高める指導を積極的に取り入れた。 毎日の授業や生活の中での話し合い活動でよく発言できた。	教職員	90	100	100	文科省が提唱する「アクティブラーニング」の取組として、ペアやグループで討論する授業を積極的に取り組んだ。高学年になると、グループで考えを伝えあったり比べたり、さらに繰り返し姿が見られ、かなりの成果が見られた。	次年度においても話し合う場面を積極的に取り入れ、児童の各学年の発達段階に合わせて、話し合いから討論、練り合いにまで高められるような表現力の向上を目指す。	・親子読書の内容は、本の感想を話し合ったり、あらすじを紹介してもらったりする内容はどうか。そういった時間も読書の時間に含めるとよい。 ・親に勧める本を選んで紹介してくれると親の意識が高まる。 ・評価は、親が子に読書を勧める内容にするとうい。	
5.読解力の向上	読んだり・書いたりする力を高める取組を積極的に行う。	朝学習や普段の学習時間に読んで思いや考えを書く活動を積極的に取り入れた。 読んで思いや考えを書く活動に意欲的に取り組むことができた。	教職員	90	100	100	朝学習や授業の中で読解力の向上のための手立てを工夫して取り組み、作文活動にも力を入れた成果が見られる。児童の多くは「書くこと」に対して苦手意識があるが、かなりの長文作文が書けるようになった。	「読むこと」「書くこと」はすべての学習において大切な要素である。次年度に向けてさらに読解力を高める手立てを工夫し、作文活動を充実していきたい。また、主な行事に対する全校作文を継続して取り組む。	・わが子は、おもしろい本を学校に持っていった紹介し、他の児童も読んでくれているようでありがたい。 ・保護者自身にも読書するように啓蒙していただくと、必ず子どもは本を読むようになるのではないだろうか。大人の読書評価をしてみるとどうだろうか。	
6.読書活動の充実	読書に親しむための読書の推進(教科書を含む)	読書指導に継続的に取り組み、読書習慣の向上を図った。 読書に継続的に取り組むことができた。 家庭において読書に親しむために、読書に関して話し合う機会を持った。 子ども達は、家庭において読書習慣が身につけてきた。	教職員	90	100	100	児童の机の横に手さげかばんをつらし、読みたい本を常備することで、すぐに本が読め、読書する姿を多く見られるようになった。また、11月は読書月間として集会などで児童が本を紹介したり、教師による読み聞かせを行ったりして本に関心を持つ児童が増えた。保護者の評価指数は目標には達していないが、読書の習慣化項目において20%の伸びが見られた。これは週末読書が浸透してきた成果である。	次年度も継続的に読書指導を行い、読書ちよきん(読書カード)を有効活用して読書の推進を行う。また、家庭と連携し週末読書を徹底させてさらなる読書の習慣化を目指す。そのために家庭読書の在り方や親子での読書に対するより良い関わり方について工夫して、読書月間を設定し、児童による本の紹介や好評だった教師による読み聞かせなど、さらなる読書推進の工夫を行う。	・親子読書の取組を今後もお願いしたい。 ・保護者の評価の観点で、「話し合う機会を持った」というのは、やや重い気がする。「読書について会話のきっかけになった」ぐらいでいいのではないかと。	

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数(%)	H29前期(%)	H29後期(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
思いやり活動の推進	7.係活動やお手伝いの推進	家庭や学校において係活動やお手伝いに取組もうとする子の育成を進める。	進んで仕事やお手伝いをする子を育てるための呼びかけを積極的に行った。	教職員	90	△86	100	お手伝いカードを活用しながら、1年間取り組めるお手伝いを設定させて家庭でのお手伝いへの意識付けを行った。今年度はさらに、年間を通して自分の仕事を書く掲示用の物を作り、冷蔵庫など目のつく所に掲示させた。自分の仕事は何であるか常に意識できたと考える。その仕事が決まれば保護者の評価も上がるはずである。	お手伝いカードは継続して実施していく。また、掲示用カードも来年度も続けていく。そのカードについては、その時々のお手伝いが書けるように工夫していく。また、カードのサイズをB5ぐらいにして、書きやすいような工夫をしていく。	・親は子を低く評価する傾向があるのではないかと。 ・役割を継続して行うのは難しい。(やりたい事がいろいろ変わる)決まってくなくてもよいのではないかと。子どもから進んでは難しいと言われればしてくれる。それでありがたい。 ・家庭でどんなお手伝いがあるか紹介するとよい。 ・お手伝いカードが書きにくい。やったお手伝いを書けるとよい。
			自分の決めた役割については、続けて仕事(係活動・お手伝い)ができた。	児童	80	87	87			
			子ども達は、家庭での役割分担や手伝いを継続してしている。	保護者	70	△51	△56			
	8.言語環境の整備	正しい言葉づかいについての指導を積極的に進める。	正しい言葉遣いについて積極的に指導を行った。	教職員	90	100	100	教師がいつもよい言葉遣いを意識させながら児童にも注意を促してきた。児童は落ち着いて生活しているが、ちょっとした場面で相手に対する言葉がきつくなってしまいう児童も数名いるので今後もさらに正しい言葉遣いについて指導を行う。	正しい言葉遣いを心がけるように継続してその都度指導していく。今後は学年に合わせた敬語の指導にも取り組んでいきたい。また、道徳や学活の時間などにも、礼儀と思いやりについて関連させた指導や取組を継続していきたい。	・今回の大雪で、子どもが雪かきを一生懸命してくれてとても助かった。
			いつも正しい言葉遣いができた。	児童	90	92	97			
			子どもに正しい言葉遣いの声掛けをした。	保護者	80	81	90			
		あいさつの習慣化の推進を進める。	児童に対して積極的に挨拶指導を継続した。	教職員	90	90	100	校長先生をはじめ多くの先生方が児童にあいさつを呼び掛けた。また、保護者も家庭で意識するようになり積極的に声掛けを行っている。生活委員会によるあいさつ運動を毎日行い、校内放送などで評価を発表し、あいさつカードの記入と賞状で、あいさつ推進活動の成果が見られた。今後はいろいろな場面でのあいさつや、お客さんに対するあいさつなどもっと自然におこなえるように取り組む必要がある。	あいさつカードは継続してやっていく。今後はそのあいさつが、教室に入る時や先生方にすれ違った時などにできるようなカードの工夫を行い、さらなるあいさつのレベルアップ及び推進を図ってきたい。	・校門前ではよく挨拶しているようだが、地区の中では声を掛けても返ってこないことがある。(伊井) ・地区の中でも子どもからよく挨拶してくれている。(桑原) ・中学生の挨拶がよい。中学校へ行くとしつかり挨拶するようになる。
			「おはようございます」「ありがとう」等のあいさつを進めた。	児童	90	89	88			
			子ども達は進んで「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていった。	保護者	80	△73	81			
	9.教育相談の充実	いじめ・不登校の早期発見、児童理解について積極的に取り組む。	いじめや不登校等の早期発見のために、児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100	アンケートを年4回実施し、児童との相談タイムを設けて一人ひとりと向き合う時間を多くとってきた。保護者に対してもいじめに関するアンケートを実施して、児童の姿容に気付きかけ作りを行ってきた。また、職員会議後には児童理解の時間を設けて共通理解と対策について協議してきた。児童が安心して楽しく学校に登校できるよう今後も気を緩めずに取り組んでいく。	普段から注意深く現状を捉え、継続して教育相談に取り組んでいく。校内での共通理解を図り、相談体制を強化していく。今後はスクールカウンセラーの紹介を児童や保護者に積極的に行ないながら相談体制を充実させていきたい。	・子どもは担任の先生に悩みを伝えられない場合がある。担任の先生以外と相談したり会話できる場があるとありがたい。 ・スクールカウンセラーのような、外部との連携をしっかりとっておこなってほしい。 ・親も子どもに対して気をくばっていく必要がある。子どもが守られているという気持ちを持つことが大切である。
			日々の学校生活を楽しく過ごした。	児童	90	97	96			
子どもとの会話などを通して、子どもの心を理解しようと努めた。			保護者	90	96	100				
10.委員会活動の積極的な取組	児童の創意工夫を生かした委員会活動の積極的な取組を進める。	委員会活動を子どもの創意工夫を生かした活動にすることができた。	教職員	90	100	100	委員会では、児童の考えを引き出しながら「小学校生活がよりよくなるには何が必要か」という考えを念頭に置きながら児童主体の活動に取り組ませた。月2回程度の活動であるが、当番活動なども主体的に行っている。ただ、声掛けが必要な児童もいるので、気を配りながら進めていく。	児童の主体的な活動を尊重しながら、担任や担当が声掛けを行いながら、さらに活発な委員会の取り組みが行われるようにする。今後は進んでアイデアを出せるような工夫(時間・練り合いの場)を設けて取り組んでいく。	・子どものいじめ問題は表面化しにくい面がある。子どもの発信するシグナルを注視し、早期発見に努めてほしい。今後も、年間4回の教育相談やいじめアンケートの実施をお願いしたい。	
		進んでアイデアを出して、委員会活動に取り組むことができた。	児童(高)	90	90	92				
11.思いやりの心の育成	思いやりの心を持って友だちや低学年などに親切に行動できる力を育てる。	相手のことを思いやり、親切にするよう働きかけた。	教職員	90	100	100	清掃活動や、大なわとび活動など縦割り班を活かした活動を多く取り入れながら、6年生のリーダーを中心に、下級生のお世話をしていくという習慣が身に付いてきており、やさしい声掛けなどが随所に見られた。同学年内で思いやりの心が見られない行動があり課題がある。	上級生が下級生を面倒を見ていくという様子が見られるので、今後も縦割り班で活動する機会を充実させ継続して取り組んでいく。同学年内で思いやりの心が見られない場面が見られることについては、道徳や特別活動の中で、思いやりの大切さを考えさせる時間を持つ。	・子どもとの個人面談で、時間がかかると教室に帰ったときにいろいろ聞かれることがあるらしい。個別の問題は、一斉の場ではなく、周りに気付かれず面談をしていただくとありがたい。 ・学校が楽しくないと答えている児童には何かあるのではないかと。注意深く見守っていく必要がある。	
		困っている友達に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(低)	80	89	84				
		友達や低学年の子に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(高)	80	92	92				

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数(%)	H29前期(%)	H29後期(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健康 安全活動の推進	12.体力づくりの奨励	体力づくりを目指した伊井っ子タイムの記録向上の取組	業間活動の記録の伸びや達成感の意識づけを積極的に行った。	教職員	90	100	100	業間マラソンでは、時間走を週3回取り入れたことで、最初、苦手意識を持つ児童もいたが、マラソンカードを昨年度から刷新したことで意欲的に活動する児童が増えた。なわとびカードの刷新も行い、なわとびについても意欲の喚起につながったと考える。まだ依然として意欲の低い児童もいるので、その喚起が課題である。	継続してマラソンやなわなどの業間活動に取り組みながらも体力向上に努めていく。なわとびカードは児童が自己の能力に合わせて技に取り組みるように工夫し、ジャンプボードを体育館に設置するなどして意欲的に取り組める工夫を行っていく。	
	13.基本的な生活習慣の指導と定着	基本的な生活習慣(就寝時刻)の指導と定着の取組: 低学年=9:00、 中学年=9:30、 高学年=10:00	決められた就寝時刻を守ることができた。	児童	90	93	95	後期は児童、保護者ともに評価は高くなった。冬休み中は、「できたよカード」により、起床時刻と就寝時刻のチェックを行い、睡眠リズムを崩さないようにする心掛けができたと考え。スポ少や習い事があるため、睡眠を確保することが難しい児童もいる。	就寝時刻のチェックを来年度も健康観察時に行い、規則正しい生活を送ることの大切さを呼びかけていきたい。また、児童の就寝時刻の現状について保護者にも保健だより等を通じて啓発していく。スポ少等の関係者にも睡眠の大切さを理解してもらえよう発信の機会を持つとよい。	・今の時代は、ネット社会でいろんな情報が氾濫している。正しい情報と間違っ情報の区別がなかなかつかず困惑している。小学生ではまだそれほどSNSの危険性はないのかもしれないが、you-tubeなど動画を見ている時間が本当に長く、寝る時間が遅くなる傾向の児童がいると思う。ぜひ、情報モラルの教育をしっかりと行ってほしい。
	14.うがい手洗いの励行	うがいや手洗いを習慣化するための積極的な取組	業間、給食前、清掃後にうがい・手洗いがしっかりとできた。	児童	90	93	91	インフルエンザの流行前に保健指導で実際に手の汚れを確認し、手洗いの大切さを指導した。児童、保護者ともに評価が上がってきており、うがい・手洗いの励行を意識して取り組むようになってきた。声掛けをせずとも児童が進んでうがい・手洗いをできるようにするとよい。	来年度も風邪やインフルエンザが流行する時期は手洗い・うがいの励行を促し、感染防止に努めていく。保健指導でのうがい・手洗い指導も効果的であったため、来年度も継続して行っていきたい。保健だより等で保護者へも呼びかけ、家庭でも取り組んでいけるように啓発していく。	・Wi-Fiでフィルタリングの他にネットが繋がる時間も決められるサービスがあるという。そういったことも大人が知っていかなければならないが、なかなか大人自身が今のネット社会についていけない。
	15.安全意識の高揚	学校生活・家庭生活での安全を意識させる取組を積極的に進める。	生活の安全について指導を進めることができた。	教職員	90	100	100	安全集会を行い、児童たちが一番走りやすい廊下に自分で折った折り鶴を置いて安全を意識させた。これにより廊下では歩こうとする意識が生じ、廊下は走ると危険であるということを認識させ、安全に対する意識が高まったように思われる。また、後期に生活体育委員会で、廊下の走る人を注意する活動を行った。それにより、児童同士がお互いに走っている子を注意するようになった。また、廊下を走る児童もいるが、根気強く続けていきたい。	さらに廊下で走らないための方策を考え、継続的に安全を呼び掛けていく。また、廊下以外でも、危険な場所や場面があることを児童に意識させていきたい。	・インフルエンザが流行していたが、大雪での休校でおさまった感がある。しかし、手洗い、うがいは大切であるので継続してお願いしたい。家庭でも気をつけていきたい。
16.清掃指導の推進	清掃活動の充実を目指した取組を進める。	清掃活動に精一杯取り組ませるために積極的に声かけや指導を行った。	教職員	90	100	△89	6年生のリーダーシップのもと、時間いっぱい掃除に取り組もうとする様子が各清掃場所で見られた。毎日の振り返り活動やお掃除金メダルの取組により定着してきたと考える。清掃時間の集合の時間も早まり、児童は黙想からしっかり取り組めるようになってきた。	今後は、清掃前のあいさつの徹底・無言清掃の徹底などさらにレベルアップを図っていきたい。また、雑巾の替え時期など一斉にできるロボロボの雑巾を使わないで済む。(児童は替え時がわからない)		

※次ページへ

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数(%)	H29前期(%)	H29後期(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
二学期制を生かした教育	17.きめ細やかな対応	児童生徒と触れ合う時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。	二学期制により、児童とのふれあいの時間を増やすよう心がけている。	教職員	90	100	△86	日頃からきめ細から対応をしようと、児童と十分に触れ合おうと心掛けている。しかし日によっては多忙なときもあって十分児童と触れ合う時間がとれないときもあった。ただ児童には、「気にかけてもらっている」「自分のことをよく見てくれている」と感じている児童がほとんどでありたい。	これから全教職員が、日頃から児童への声かけや児童の様子をよく見ようと思っていきたい。	・先生は自分のことをあまり見てくれていない」と答えている児童が一部いる。先生の気持ちとは差があるのかもしれないが、気を配ってくれるとありがたい。
			先生は学習や生活の中で自分のことをよく見てくれている。	児童	90	95	95			
	18.長期休業の意識改革	夏季、冬季休業を学期の途中として、意識させて取り組む。	休業中にきめ細やかな学習指導を行った。(学習会3日以上)	休業中も暑中や冬休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	教職員	90	100	100	学校にエアコンが配備されたおかげで、夏の暑い中も充実した補充学習ができるようになった。普段の家庭学習の習慣化から、休業中もしっかり計画的に学習する児童が増えた。これは、休み中のしおりにある学習計画欄を有効に利用する指導も生きていると考える。保護者の指数が大きく伸びており、これまで休み中の課題の取組については、声掛けしてもらうことが中心であったが、児童が自主的に学習に取り組むようになった成果の表れと考える。	休み期間の補充学習を充実したものにしていく。また、児童クラブの先生と連携を行い、課題について計画的に取り組む指導をしていきたい。夏季期間中のしおりの学習計画の欄に、しっかりと学習計画を書くよう、今後も指導を継続していく。
わが子は、夏休みや冬休みの期間、計画的に課題に取り組んでいた。				児童	80	92	99			
わが子は、夏休みや冬休みの期間、計画的に課題に取り組んでいた。				保護者	80	△69	89			
19.信頼ある教育の実践	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童生徒や保護者に対して丁寧な説明を行う。	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行うことができた。	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行うことができた。	教職員	80	100	100	2学期制のため、夏休み前の保護者会や1月の保護者会に通知表を渡してはいるが、児童の振り返りカードや学習状況等の資料を用意してできるだけ詳しく児童の様子を伝えようとしてきた。保護者も詳しく知ることができたと答えている。	今後も教職員は、児童の学習状況や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、保護者に対して丁寧な説明を行っていききたい。	
			個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	89	94			
学校間・保小連携の推進	20.学校間の連携、保幼小連携の推進	学年間や学校間の交流活動に対して仲良く、意欲的に交流するように働きかける。	交流活動時に熱心に取り組むように声かけを行った。	教職員	90	100	100	ふれあい班(縦割り班)活動では、学年の垣根を越えて、仲良く意欲的に活動している姿が多く見られた。また、低学年と子ども園との交流活動も活発に行われ、保幼小連携がよくとられていた。教職員もお互いの授業(保育)を見せ合う交流も行うことができた。	今後もふれあい班の活動について熱心に取り組む、学年の垣根を越えて、仲良く活動でしていけるよう働きかける。こども園との交流については、今後も生活科や学校行事、業間活動等で交流を深めていきたい。また、教職員もお互いの授業(保育)を見せ合う交流も継続していきたい。	・伊井小は地域の人と触れ合う行事が多くあり、今後も地域との連携を大切にしていきたい。この伊井地区で育った地元を大切に思う気持ちをしっかりと持ってほしいと願っている。
交流活動への参加について、仲良く活動することができた。			児童(低)	90	97	97				
交流活動への参加について意欲的に活動することができた。			児童(高)	90	90	90				